

受賞者からのコメント

対象：医学部 3年

医学部呼吸器・アレルギー内科学講座 教授 高橋 弘毅

「授業を行うにあたって工夫していること」

私には、学生の臨床講義、とくに疾患を教える際に心掛けていることが2つあります。

1点目は、何故、その疾患を勉強する必要があるのか、その胆となる理由を講義の冒頭で話すことです。もちろん、それは「試験のヤマだから」といった類いではありません。また、その切り口も講義毎に変えるようにしています。たとえば、じん肺の講義では、患者さんがどのような国家政策の下で発生し、どのような医療補償や訴訟問題を抱えているのかを提示し、医師になろうとする者にこの疾患について医学的知識を持つことの必要性を感じてもらいます。要はこの病気のことを知るためにこれから始まる90分間の講義を受けてみようという動機付けを学生に持たせる狙いがあります。

2点目は、講義毎に「今日の達成目標」を5-7項目程度、提示しておくことにしています。それらは学生にとって、いま教員の話している内容がどの達成目標に相当するのかをon timeで確認するためのナビゲーション（目次）となり、講義の内容が記憶に残り易くなるからです。当然、内容にこだわったレジュメを配布することは必須であり、学生が意欲的に復習することを促し、また、もっと深く知ろうと論文検索をするきっかけにもなります。

「学生への要望・アドバイス等」

自分が学生だった頃を思い返すに、この講義で覚えた知識が何に役立つのだろうか、しばしば疑問を感じたものです。そう思った途端、睡魔が襲ってきます。

実は卒業し医師になってからも同じことが言えます。医師としての自己を磨く為には、最新の知識を得る為に学会や講演会を聴講しなければ向上はあり得ないのですが、仕事疲れからつい居眠りをすることがあります。それは君達が部活で疲れて授業で寝てしまうのに似ているかもしれませんね。

でも！ 聞き逃した話のなかに向上へのヒントがあったかもしれません。どの講義にも、これだけは覚えて欲しいtake-home-message的な内容が含まれているはずですが、それについて、講義終了後、クラスメートと情報交換するとよいと思います。

また、ぼんやりとした講義をされた先生には積極的に質問をしてください。そのことが、講義内容のグレードアップにつながります。